

1 自己評価(2階)

2

事業所番号	2873003061		
法人名	社会福祉法人 田能老人福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム「春日の家」		
所在地	尼崎市田能5丁目10番25号		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873003061&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菰乃町2-2-14
訪問調査日	平成23年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりした生活をモットーに、入所前からの生活を少しでも多く取り残した支援を行っている。また、個々に役割を持ち、春日の家での生活を楽しくでもらえるよう支援することに努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ユニットごとに理念を置き、共有している。 しかし、入居者の重度化により、職員の介助の度合いが大きくなっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・入居者自身が自治会に加入しており、バーベキューや地域清掃、ハイキングなど大勢参加する行事に参加して、地域とのつながりが持てるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通じ、地域の代表者に現状や課題等を理解してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者家族、包括、自治会の代表者が集まり、行事、実績報告、サービスについての疑問や課題等について話し合い、今後のサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・事業所として、市の担当者と連絡はあまりとってないが、サービス実施におちえ、疑問点が生じたときは、連絡するようにしている ・施設長などが取っているのだと思う		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の勉強をしていないので、わからない ・身体拘束の勉強を開催し、冊子を個々が読めるようにしてる		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日中、複数の職員を設置し、一方の職員が虐待することないように互いに見守りしている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護について学ぶ機会がない ・勉強会を予定しているので、その際に知識を深めていきたい		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書の音読、丁寧に説明し、理解するまで話し合いを設ける		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・2ヶ月に1回の運営推進会議の実施で運営に反映させている ・隔週で介護相談員と入居者が直接話しをする機会を設けている。その後にミーティングを行い、入居者の思いや要望等を知れるよう心がけている		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・運営推進会議、GH会議、考案活動等で意見を提出している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事院勧告にならって賞与の額を提示するなど運営状況があまりよくななくても、給与水準は良いほうだと思う ・勤務状況まで把握しているかわからないが、職場環境を整えようとしてくれるている ・面談、評価、査定などがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者が一人一人のケアの力量を把握しているかはわからないが、研修を受ける機会は設けてくれている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修へ行ったりして、交流する機会がある		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・介護相談員の導入、本人だけでなく、家族等にも要望を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。また、入居者が不穏になったりするときは、一緒に話をしている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・来苑時等、積極的に話をする機会を設け、話かけや要望に耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのときに必要な人をピックアップしてる。また、他施設利用の実績がない。入所前の面接時にどのように生活していたのか聞き、役立てている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者の家で過ごしているという気持ちで接しているまた一方的に介護するのではなく、要望等、本人に合った支援とアセスメントができるよう心がけている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入所前の生活歴からリサーチし、家族とともに本人を支えている。入所後は、行事等に本人と参加してもらい、孤独を感じないよう協力を求めている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・季節ごとのはがきを送ったり、遠方の人は電話くれたりと交流をはかっている		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、リビング等で過ごしてもらう。また、外出の際は、相性のよい人同士を組み合わせたりしている		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービスが終わるとあまり接点がないように思う ・母体の特養へ入所しても時折尋ねるなどして関係を絶たないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常会話や行動などから本人の思いや意向を探るようにしてる。困難な入居者に関しては、家族との話し合いなどを通じて、本人の希望になるべく添えるようにしている。また介護相談員から話を聞いてもらったりしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の生活歴などを生活環境を把握できるように努めてる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の記録、入居者の言動などを共有し、援助できるよう努めている。またレクリエーション等で誇示の能力等も把握し、利用している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・各職員が気づきを提出し、モニタリングを実施している。カンファレンスを行い、家族に了承を受けた上、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・主に日常生活介護記録を利用している。用紙の改善を行ったり、それを見れば、何でも情報がわかるようになっている。介護計画作成に当たっても参考にしている。また、家族が来苑した際には読んでもらえるよう声をかけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・今までと環境が変わった際などには、報告をしている。また、その方に応じたサービスが取り組めるよう一緒に考えている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・祭りやハイキングなどの行事に参加し、町内の人と顔見知りの関係を築くことで、入居者にとって、安全で地域に根ざいた生活ができると考えている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からのかかりつけ医を主治医とするが、環境から困難の場合は、往診してもらうなどして、主治医を決めている。担当職員が主治医との連絡をこまめにしよう努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・駐在の看護師はいないが、往診の際や電話連絡にて、こまめに連絡が取れるようにしている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・必要に応じて、一緒に職員が通院することもあるが、主治医等に直接連絡し、指示をもらっている		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期の支援をした事例がないが、今後そのようなことがあれば、必要に応じ、話し合いが必要になってくる。また、春日の家の重度化により、家族との今後についての話し合いは必須であると考えている。母体の特養も利用していきたい		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命講習を受けたり、マニュアル等を置いている。また、個々にシートを用意し、あわてることのないようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の消防訓練を実施し、シュミレーションを行いつている。火災の際には、近隣にも協力してもらえよう町内会を通じて協力体制をとっている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日々心がけて対応している。トイレ誘導の際も外で待機したりとプライバシーに配慮できるようにしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ティータイムなどでは、好きな飲みものを選んでもらったりしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の希望に沿えるよう努力している。また入浴などは意思がある方に関しては、好きな時間に入ってもらえるよう業務を変更したりできることはやっている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・好みの服を着てもらったり、化粧水をしてもらったり、口紅をしてもらったりして。また、訪問美容を利用している			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜の皮むきなどは一緒にやっている。また節分などの行事のある日は季節に応じた献立にしたり、残食の少ない茶碗むしなどを提供している。また盛り付けにも多すぎたりせず、工夫している			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個人により制限があったりするが、個々に応じた量が提供できるようこまめに提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを実施している。自力のできる人は声をかけている。週に1回、ポリデント洗浄を行っている。また訪問による歯科衛生士の指導も実施して			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンの把握に努めるとともに、夜間と昼間のパンツの使用を変えたりしている。オムツの方でも二人介助をするなどして、トイレで排泄してもらえよう努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・体を動かしてもらったり、朝一番に水を飲んでもらったり、繊維質の多い食事を摂ってもらったりしている。また慢性便秘の人には主治医と相談し、服薬等コントロールしている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・自分で決定できる人には好きな時間に入ってもらっている。また、時期に応じて、ゆず湯、菖蒲湯などいつもと違ったお風呂を楽しんでもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・必要に応じて、足浴を行ったり、テレビを見たい人は、ゆっくりみてもらったりしている。また、昼寝に関しては、1時間程度を目途に起きてもらっている(昼夜逆転にならないように)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬が終了するまで見守りを行っている。また、誰がどのような薬を服用しているのか把握できるよう、日常生活介護記録に処方箋をはさんでおり、常に最新の情報が閲覧できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節ごとの行事の実施、酒やタバコの嗜好品は控えているが、夕涼みの際に、ノンアルコールビールを提供したりしている。生活の中では、調理、掃除等個々の力を生かした作業をしてもらっている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・外出すると喜ばれる人が多いので、なるべく外出できるよう心がけている。気分転換など声をかけ外出したり、年に数回かは、車や電車を利用して、水族園などに出かけている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者はお金を管理していない。事務所で管理している ・自己管理している人は、出納帳をつけ、管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を使いたい人は必要に応じて、電話を使用してる。小銭は預かっている人と、自分で持っている人というが、管理はしている。 ・年賀状等書き、家族に送ったりしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある飾りなどを置いたりしている ・玄関やEVホール、下駄箱の横にソファを設置し、腰をかけれるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファなどを設置し、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みのある家具を持ち込んでもらったり、カレンダーや写真などを飾り、自分らしい部屋を作ってもらっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりにあった生活や環境づくりの援助をしている ・居室前にネーミングシールを作成したり、自分の作品を展示したりして配慮している		